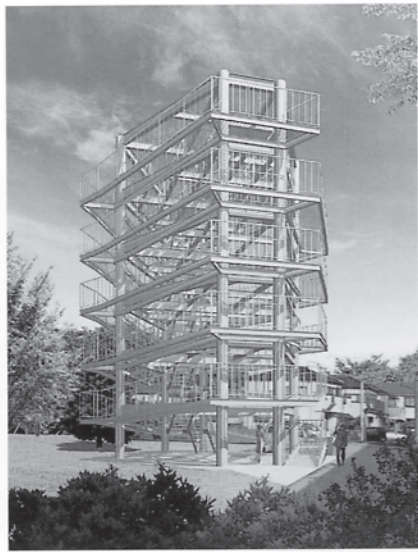


企業・産業レポート

大津波から身を守る！ スロープ付きの鋼製「避難櫓」 実用新案取得し、販売本格化

薫華



スロープ付きの鋼鉄製「避難櫓」

なスロープで上れる施設がベストではないかという結論になりました」(株薫華・松永専務)。

東日本大震災直後に、大きな窓を持つ鉄骨造りの被災したビルが、津波の直撃を受けても倒壊を免れたことに着目し、構造体は鉄骨造りにした。高さは標準タイプが地上から12m、1基に100人以上避難可能で、広さ75㎡の屋上には、つかまるための手すりのほか、手が離れても大丈夫なように命綱ベルトや浮輪も常備している。避難櫓は六角形の亀甲状になっており、海に向かってやや細く設計されている。津波の衝撃を少しでもやわらげるため、波が戻る時に漂流物を流しやすいように、このカタチにしました(松永専務)。

建設費は1基約3000万円で工期は2カ月。100㎡の広さの敷地があ

総合商社の株薫華(焼津市宗高1391-5、池谷道夫社長)は、立体駐車場の設計・施工を手がける(株)エム・プランニング(大阪府高槻市中川町5-8、森本秀樹社長)と共同で、大津波から身を守る鋼鉄製の避難用建造物を考案した。6月29日には実用新案も取得し、今後自治体などを中心に全国販売を展開していく。

「退避櫓(やぐら)」という商品名で売り出すこの建造物は、立体駐車場がヒントになった。両社では4月に静岡県内各地の海岸周辺住民に聞き取り調査を実施し、近くに避難ビルはあるものの自力で上れない人も多いという声が多く寄せられたことから、「お年寄りや子供、車イスの方が一緒に避難できる建造物となると、どんな仕様がいいのだろうか」と話し合う中で、緩やか



車イスの人や子供も安全に避難できる

れば設置できる。津波対策用の避難塔には多くの企業が参入しつつあるが、スロープ付きの鋼製櫓を扱っているメーカーはまだないという。

薫華では、建設後に地域の人たちが自立的に管理できるように、防犯設備など安全管理のためのオプションも提

発足2周年を記念して 浜松総務部木村社長招き講演会

リスクマネジメント研究会

中小企業・管理職のためのリスクマネジメント研究会(中溝一仁代表)が発

門知識を生かし、業務改善の推進にも取り組み多方面で活躍している。

足2周年を迎えたことを記念し、9月7日に木村玲美(なるみ)氏による講演会「円滑な人間関係が、職場の生産性を高める！」(人間関係のリスクマネジメント)を静岡市産学交流センターで開催した。当日会場には約50名の参加者が集まり、テーマである「人間関係のリスクマネジメント」に対する関心の高さがうかがえた。

職場の生産性向上に大きく関わるのが各人の「モチベーション」であり、それは職場の人間関係に左右されると木村氏は指摘する。そこで人間関係の改善や良好な状態を維持するため、即効性の高いアプローチは「ほめる」「叱る」の2つ。「ほめられ上手」「ほめ上手」「叱られ上手」「叱り上手」となることを各人が目指せば「職場がチーム」として機能する「状態を生み出すことができる」と述べた。



講師の木村玲美氏



講師の木村氏は浜松総務部(有)の代表取締役を務めながら、ITコーディネーターや産業カウンセラーとしての専

また後半では利き脳の分析手法である「ハーマンモデル」を用いた自己分析や、思考スタイルがコミュニケーションに与える影響を説明していた。

同研究会では今回テーマとした「人間関係」の他にも様々なリスクを取り上げながら、月に一度開催する研究会において会員の知識向上や情報共有を進めている。

問い合わせ、0544-257-8695
(有)アクセスユーブラン
<http://www.risuman.com>